

第35回 日本整形外科学会基礎学術集会
The 35th Annual Research Meeting of the Japanese Orthopaedic Association

LANCHEON SEMINAR — 18

ランチョンセミナー18

オンライン
学術集会
(Live-Web開催)

2020年10月16日(金)
12:10 ~ 13:10

座長

馬渡 正明 先生
佐賀大学医学部整形外科
主任教授

THEMA

アナトミカルシステムの臨床成績

演者

坂井 孝司 先生
山口大学大学院医学系研究科整形外科学 教授

単位：日整会単位(種別/必須分野)N [11]骨盤・股関節疾患

単位取得
方法

- ・参加登録時にオンラインで受講申し込み(受講料:1単位につき1,000円)
- ・申し込みをしたWebセミナーを受講。
- ・受講後、学術集会在設定したe-ラーニング(設問)に回答。

共催：第35回 日本整形外科学会基礎学術集会

京セラ株式会社

アナトミカルステムの臨床成績

山口大学大学院医学系研究科整形外科学 教授 坂井 孝司

アナトミカルステムは、大腿骨髄腔形状に三次元的に適合し高い fit and fill を実現することで良好な骨形成の実現を目指すセメントレスステムである。近年の各国のレジストリーではテーパウェッジやレクトアングュラーステム、またショートステムがセメントレスステムとして広く使用され、アナトミカルステムの使用頻度は決して多くはないが、非感染性ゆるみを終点とした場合の累積生存率は、術後20年で96%-100% と他のセメントレスステムと遜色のない成績を示している。Mainstay systemは、セメントレスアナトミカルステムの1種で、術中に前捻・脚長・オフセット調整を可能とするチェンジャブルネックシステムを有するのが特徴である。Mainstay systemでは、前捻調整

については理論的に約15-30°の減捻が可能となっている。また4mm増のオフセットネックを用いることで、オフセット調整を図ることができる。一方、モジュラー接合部に関する合併症である折損、腐蝕の発生が欧米では報告され、接合部の instabilityによるcrevice corrosion に起因する折損と考えられているが、本邦では患者の体格も欧米に比較して小さく、欧米とは背景が異なると考えられ、現時点でMainstay system における折損例は報告されていない。本講演ではアナトミカルステムの成績と、チェンジャブルネックシステムに関する報告をレビューし、Mainstay systemにおける知見を紹介する。